

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5940m以上の上空の高気圧に対応して、地上の高気圧が黄海付近にほとんど停滞、別の高気圧が日本海を東南東へ移動。
- ② 沖縄の南を西進する上層寒冷低気圧（UCL）や黄海付近の高気圧南縁を回る下層暖湿気の影響で、南西諸島では強い雨を解析、雷を検知。
- ③ 千島近海を東進する低気圧から東日本太平洋側にのびる気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、静岡県では非常に激しい雨を解析。
- ④ 500hPa 5700m付近のトラフに対応する低気圧が中国東北区を東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 18日にかけて、1項①の上空の高気圧は、華中付近に中心を移しながら帯状に本州付近を覆う。また、500hPa 5940m付近の亜熱帯高気圧が、南鳥島近海から小笠原諸島近海に移動。地上では、黄海付近の高気圧は、18日にかけてほとんど停滞。16日朝までに、日本海の高気圧は不明瞭化し、日本の東で発生する高気圧が18日にかけて小笠原諸島近海に移動。西～東日本と北日本のこれらの高気圧に覆われる地域では18日にかけて、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ② 1項④の低気圧は、16日は前線を伴って間宮海峡付近に進み、17～18日はオホーツク海を北上して、低気圧からのびる寒冷前線が北日本を通過する。低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では強風や高波に注意。
- ③ 2項①の高気圧圏内では、日中の昇温や高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、2項②の前線が通過する地域では、低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ④ 1項②のUCLは、16日夜には華南付近に進み、小笠原諸島付近にある別のUCLが18日にかけて沖縄地方に進む。また、17日夜までにフィリピンの東で発生する低圧部が、18日にかけて沖縄の南に進む。上空寒気や高気圧縁辺を回る下層暖湿気、及び低圧部周辺の下層暖湿気の影響で、南西諸島では18日にかけて、大気の状態が不安定となる。落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：東海100mm。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。③ 高潮(明日まで)：西～北日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。